

## 行政改革推進委員会 平成30年度第3回会議議事要録

### 1 日時

平成31年1月17日（木） 午後6時30分から午後8時まで

### 2 場所

市役所4階 第3委員会室南

### 3 出席者

委員：小泉委員長、大池副委員長、岡本委員、飛野委員、星野委員、増田委員、  
櫻井委員、清水委員（都合により19時30分以降出席）

島田市議会：大石議長、清水副議長

総務生活常任委員会：曾根委員長、伊藤副委員長、河村委員、齊藤委員、  
佐野委員、山本委員

事務局(行政総務課)：中野課長、藪崎課長補佐、鈴木主査

### 4 概要

#### 1 開会

- ・委員長から行政改革推進委員会の概要、今回の議員との意見交換会の開催に至った経緯の説明。
- ・昨年度は行政経営戦略の改定の年であったため、そのことについて審議した。
- ・行政改革は20年以上取り組まれており、スリム化はやりつくした感がある。
- ・そのため、行政の効果を上げ、市民の満足度を高めていくというプラス思考で取り組んでいった方がよいのではないかと感じる。
- ・昨年度は策定にあたり、効率化の面は、常にやっていたため、委員会としては、もう少し広い範囲で意見をいただいた。
- ・ただ、総合計画審議会であれば、教育や文化、産業など政策別にそれぞれ議論するが、行政改革は横串を通すものであるため、会議で委員が発言することが難しい。
- ・そのため、発言する時は、例えば教育ではこのようなことであると具体的に例示していただき、最終的には、教育に限定せず、どの政策にも反映させる形で行政経営戦略をまとめていった。
- ・また、委員会としてではなく、個々の委員の市民目線での意見も重要であるため、取りまとめを行い、市へ報告した。
- ・今年度については、市から、市民が参画する審議会等のあり方を検討するにあたり意見をいただきたいということであった。
- ・あり方については、委員会で決めることなく、また、意見も委員会としてというより個人の委員の意見であるため、今後、市において検討する際に参考

にしていだければと思う。

- ・それとは別に、今年度も、昨年度同様、委員会で出た意見については、取りまとめを行い、部長職の方が出席する行政経営会議等で報告をしていただき、参考にしていだければと思う。
- ・この会議は9月からスタートしており、任期は3月までである。市民の参画について議論する中で、市民の代表である議会のみなさんと意見交換をしたいという話になった。
- ・この意見交換については、委員についても、一委員の意見であり、議員のみなさんも、議員としての立場でお話をされると思うが、議会を代表してではなく、一議員として発言していただき、ざっくばらんに意見交換をさせていだければと思う。
- ・そのようなことを受けて、本日出された意見についても、市の様々な取組に活かしていただけるとありがたい。

## 2 自己紹介

## 3 島田市議会議員との意見交換

### 【意見交換の内容】

○委員長 委員から議員のみなさんに聞いてみたいことがあればお願いしたい。

○副委員長 これからは、財政も厳しくなり人口も減少していく。そのような厳しい状況の中では、市民同士が話しあうことも大事であるが、一番大事なのは、市民の代表である市議会の議員のみなさんが、一般の市民の方とうまくコミュニケーションをとっていただくことだと思う。議会報告会やネット中継もされているが、報告会については、もう少し工夫していただき、市民のみなさんが参加しやすいものにしていただきたいと思うが、どうお考えか。

○議員 島田市は、十数年前から議会報告会を始めた。最初の頃は初めの30分くらいをかけて各常任委員会の報告をし、その後、市民からの意見を聞く形で行っていたが、なかなか人は集まらなかった。今年度から、名称も「議会との意見交換会」とし、報告はそこそこにし、会場ごとにテーマを決め、市民から、そのテーマに沿った意見を出してもらおうというやり方にしたところ、150人くらいの人が集まった。色々な意見を聞かせていただき、各常任委員会で約1年間研究し、去年の12月に、市へ提言を行った。本日も、議会の報告会やその場でいただいた意見をどのように活用していけばよいのかということ、講師を呼んで研修を行った。以前は議会で決めたことを反対す

べきではないという考えがあったが、講師からは、議会で議決したことを尊重しながら、個人の色々な考えを述べてもいいのではないかという話もあり、そのようなことも考えていきたい。我々が企画してもなかなか人が集まらないため、市民の方から呼んでいただけるとありがたい。議会との意見交換会は、今は議会が主体であるが、市民が主体でもよいと思う。今は、事務局は基本的にはお手伝いで、議員が中心となり、準備をし、片付けも行う。市民とともに会場を作ったり、テーマを何にするかなど話し合いをしながら進めていくことはやぶさかではない。なるべく、市民のみなさんの意見を聞き、議論したいと考えている。議会基本条例でうたわれている議会となるような改革については、まだまだ発展途上の取組であるが、どんどん変えていきたいと考えている。

- 議員 議会報告会について、数年前は、PTAなどの各種団体にこちらから投げかけると、議会とは何を話してよいのか分からないということで断られたことがあった。我々から出て行くとそういう状況にあるため、市民の方達が集まった時に、議会に話を聞いて欲しいということで呼んでいただければ、出て行くことはやぶさかではない。そのあたりをこれからうまくやっていくことが、1つの課題であると考えている。また、六合や大津などの地区で行うと20人から30人くらいの人に来てくれる。防災などの地域の問題に対し色々な意見が出てくる。そのように、きめ細かくやることも1つのやり方だと思ふ。
- 副委員長 確かに議員の方から声をかけられると緊張してしまうかもしれない。色々な方が話し合っていく素地が必要だと思う。これから色々なことを決めていく時に、みんなが、仕方がないけど納得するという場面が必ず必要になってくると思う。そのためには、色々な話し合いの場が必要になってくると思う。
- 議員 意見交換会は対面式の形をとっているが、他の議会では、ワークショップ形式で、グループごとでやっているところもある。本日の研修の講師の話にもあったため、そのことについても、今後の検討課題となってくると思う。ワークショップ形式であれば、5人から6人ぐらいのグループで、意見を聞いて、否定しないで、全部を受け止めるということであれば、意見を出しやすいのではないか。
- 議員 本日の研修の講師からは、ファシリテーターの研修を受けるように言われた。
- 委員長 ワールドカフェ方式もいいのかもしれない。
- 議員 市民同士の話し合いができる場ということで、前回の会議録を見させていただいたが、無作為抽出の市民が出られる方法ということで、昨年、地域づくり課で、3,000人を無作為抽出し、その中の21人が参加し、子育てをしやすいまちをつくるというテーマで意見交換会が行われたということで

あった。私は、以前、市長へ、そのような方法で何かテーマを1つ決めて市民参加の形でやってみてはどうかとお話したが、市長は、島田市民は無作為で抽出したとしても参加しないのではないかということで、そのような方法はとらなかった。本年度、初めてそのような方法を取り、21名が参加され、色々な話し合いがされたと思う。そこで終わりではなく、参加した方が、次に何かの公募があった時に手をあげるきっかけになるのではないかということは、色々な研修の場で聞いている。市民活動が活発で市民度が高い自治体ほど無作為抽出における参加率が高いという結果が出ている。今後の市民参加のきっかけになるのではないかと思う。

- 委員 議会改革について教えていただきたい。外から見ているだけでは分からないため、日常的に仕事をされている中で、問題点があり、そのことについて議論されているのかどうかを知りたい。
- 委員長 議会改革については、色々なテーマがあると思うため、ここ数年で、議会の中で話題になったものがあれば教えていただきたい。
- 議員 議会改革については、なんとか市民に開かれた議会となるよう、市民の声を聞きながら、それを行政に提案できないかを考えている。議会は特別な存在ではなく、色々な議論ができないかと日々努力している。先ほどもお話したが、議会との意見交換会で出された政策課題を、約1年かけて調査研究し、市当局へ提言をした。今、取り組んでいるものであるが、予算、決算、条例などの議案は議会へ提出される。1年間のサイクルの中で、一番大事なことは、決算をしっかりと審査することである。何が良くて何が悪かったのか、来年は継続してやるべきか、もうやめるべきかを当局側に提案することにより予算に反映される。その次は、その予算がどうであったかというサイクルを作りたいと考えている。過去の議会改革としては、議場放映がある。どうしたら開かれた議会となるかを考え取り組んだものである。発信の関係でいうと、「しまだ議会だより」は、市民に読みやすいものとなるよう特別委員会で考えており、他市町から視察に来ていただけるようなものとなっている。他には、正副議長選挙について、法令上、立候補制度を行うことは議論のあるところだが、島田市議会においては、議長、副議長になりたい方は事前に届出をし、本会議場ではなく委員会室で、このようなことで議長・副議長になりたいということを述べていただき、その後本会議場で選挙を行い議長・副議長が決まる。これについては、議長・副議長になる前に立候補演説として所信表明をするなどおかしな点はあると思うが、これまでは、暗黙の中で、無記名投票で議長・副議長を選んでいたが、この人はこのようなことをやりたいという中で選べる形とした。平成28年度から試行で実施し、平成29年の6月から本格的に行っている。また、議会基本条例について、開かれた議会となるよう議会の役割を明確にしながら半期に1度

見直しを行い、より良い議会を目指している。

- 委員 現在、定数は20人であるが、先ほどの決算の審査の話もあったが、人数は足りているのか。
- 議員 個人的な思いとしては、足りないと感じている。
- 議員 議会改革について、1人の議員ではあまり多くのことに対応できない。ただ、本日の研修会でも話があったが、それぞれのスキルや経験値があり、それらを活かしてやっていければよいと思う。私は、以前、経理の仕事をしていた。市では、3月に工事をたくさんやる。物もたくさん買うが使わなくても3月の予算である。一般の企業では使っていないのであれば、翌年の費用となる。そのようなことが身についているため、おかしいと感じながらも、単式簿記と複式簿記の違いもあるため、うまく線引きしなければいけないと思うが、やはり時期のずれについては、予算のつけ方が変わってくると思うが、そのようなことを配慮してやっていけばよいのではないかと思う。島田の財政を簡単に説明すると、1年間でだいたい250億円で、一般に使うものは200億円、借金の返済に40億円、残りは10億円で、追加されたものなどに使う。しかし、ここ3年間は、1年間の予算が310億円となり60億円増える。増える理由は、病院建設などである。増える分は借金もする。この現状であれば、なんとかやっていける。ただ、大丈夫だからと言って何もしないわけではなく、人を増やすことに関して努力をし、税収を増やしていかなければいけないと考えている。
- 議員 議会改革として、先ほど、議長から、今取り組んでいるものとして決算審査の話があったと思う。決算を予算にどのように活かしていくのか。その時の最大の課題は、誰もが共通で持てる評価基準が少ないということ。PDCAサイクルを回すとしても、評価基準は、当局は分かっているが、自分達の計画を自己評価するため、非常に高い。しかし市民の評価は、また、意味が違ふと思う。具体的に言うと、県の評価とある自民党の会派の評価はまるっきり差がある。そのようなことを考えた時、今、我々が特別委員会で1つのテーマを絞った場合には、PDCAを見るにあたって、誰にも分かる事業評価を出していただくことを手始めにやる。これに対して、市は相当の努力をしていただけたと思うし、議会も、それを使ってとりまとめをしていってはどうかと考える。
- 委員 議会の最大の仕事は、行政のチェックだと思う。チェックする上で、先ほどの議長の話であると足りないということであった。我々のような民間であれば、すぐに募集をかける。本当に人数が足りないのであれば、増やすということも一つの選択肢ではないかと思う。言いにくいのかもしいないが、自ら議会で話し合っ、提案されてもよいのではないかと感じた。
- 委員長 なかなか、議会の方からは言いにくいと思う。
- 議員 我々ができることは、汗をかき、頑張りを市民のみなさんに分かって

もらい、そのような議員がもう1人、2人増えたらもっといいという雰囲気を作っていくしかないと思う。そのために、分かってもらえるようにアピールし、発信している。議会に出ることだけが仕事ではなく、他の時も、勉強に行ったり、研修したりしているが、なかなか見えないため、そのような裏側も分かてもらえるよう努力していくことが我々の活動であると思う。

○議員 今、議員が20人いるが、1人、2人辞めても、補充されない。島田市では4人辞めて、初めて補欠選挙となる。民間の考え方では、おかしい。3人抜けても100%の仕事ができる環境を整えておかなければいけないと思う。法律で3人抜けても補充できないことになっているのであれば、多めに確保できるようにしてほしいということを、我々が言い続けていかなければならないと思う。

○委員 議員の方から市の職員はどのように映っているのか。改善した方がよい点などがあれば教えていただきたい。

○議員 昨年、この会議を3回ほど傍聴させていただいた。その時の感想として、市の職員の方の中にも、優秀で心の熱い方がいるものだと感じた。市内の色々なところで、市の職員を見かける。このようなところにも来てくれて、一生懸命やってくれていると感じている。若い市の職員の思いが、将来的に市を引っ張っていってくれて、良き幹部に育てられるだろうと期待している。それが、この行政改革推進委員会のもっている意味なのではないかと感じた。

○議員 若い市の職員は活発であると感じる。しかし、市役所は汚いと感じる。私が以前いた会社では、5Sを徹底していた。ロッカーの上には何も置かない。コピー機の周りも紙はあるが、整然としている状況を保つことが身につけている。新庁舎を作った時、こういう状況のままであると、建物はきれいであるが、中は汚くなってしまう。きれいにすることで気分的にも違うと思う。第三者が入ることが非常に多いため、1階はそれほど乱雑になっているという感覚はないが、見えないところは、乱雑になっている印象がある。きれいにすることに取り組んだ方がよいのではないかとと思う。

○委員 自治基本条例について、議員の方はどのようにお考えか。

○議員 私は議員になって1年7箇月くらいであるが、自治基本条例については、6月の定例会から入って9月の段階では既に骨子ができており提案したいという話があった。その中身を見させていただいた時、それが、今、必要なかという感想を持った。これをすぐに制定することはまずいのではないか。市民から、この条例は必要であるという思いが沸き上がり、自分達は何でもするから制定したいというものであればよいが、行政が押し付けるようなイメージになる条例ではまずいだろうということが私の感想である。結

局、いまだに決められていない。ストレートに賛成する議員ばかりではないため、時間をかけてやることの方が大事ではないのか。市民、行政、議会が、十分な議論ができ、お互いに必要であると思うまでは制定すべきではないと考える。

○議員 自治基本条例については、本当は進めないといけないと思うが、私も反対した。条例を作るにあたり、色々なところで会合があった。他市の反対する人の主格のような方が来て、反対する意見を言う。そうすると、一般市民はあまり勉強していなくて、反対している人はものすごく勉強しているため、おされてしまう。正論を言いたくても勉強をしていないため言えず、反論が多いため、少ない人数でも意見が大きくなる。でも、それは五分五分ではないと思う。また、条例を作るにあたり、どこかのモデルを参考にしたと思うが、そのモデルが、あまりにも貧相だと思う。もっとよいモデルがたくさんあると思うので、それを参考にすれば違ってくると思う。当局には、飯田市の条例がすごくよいためお勧めはしている。このようなものを作る時には、賛成する意見を言って、反対をおさえるくらいの意思がないとできないと感じている。進めるのであれば、サンプルを変えるなど再調整していただきたい。

○議員 自治基本条例を一番最初に作ったのは、ニセコ町であると聞いている。ニセコ町が作った理由は、町の職員の意識を高めるためであったと講習会で町長からお聞きした。町の職員の意識さえ変われば、町民の意識も変わるだろう。その上でまちづくりをしようということが最初の狙いであったそうである。他のところが真似をして、たわいもない文言を並べて作ったとしてもうまくいかないと思う。そのような自治基本条例が多く出てきたことが1つの問題点である。我々も勉強しているが、あってもなくてもいい。あればあったにこした事はないが、ただ、作れば、それをどのように運用していくのか、市民がどのように考えるのかが一番重要になってくると思う。

○委員 島田の魅力はどのようなところだとお考えか。島田に長く住んでいて、離れたくないと思うが、改めて理由を考えると、ゴミの捨て方が楽だからということ以外になかなか思いつかない。

○議員 私が住んでいる六合では、昭和48年頃にコミュニティができたが、その感覚がすごく身についている。他のところでは、コミュニティ会館はあるが、コミュニティができていないと思う。六合を参考にコミュニティをやればよいと思うが、なかなかできていない。六合は、2年連続文部科学省から表彰されている。それだけコミュニティを推進している。新しい方が入ってきて、コミュニティが薄れてきていることが現状であると思う。ただ、コミュニティを無くしてしまうと大変なため、祭りや行事、災害などをカバーできるようなまちづくりが必要ではないかと思う。災害が起きた時には、隣

近所でカバーしていかないといけない状況になると思うため、そのような協力体制は根強く作っていかなくてはいけないのではないかと思う。島田市の魅力と言われれば、住みやすいところだと思う。

- 議員 視察で色々なところに行っているが、島田はずいぶん恵まれていると感じる。交通の便はよいし、温暖であるし、そんなにギスギスもしていない。のんびりしすぎているところがよいところだと思う。ただ、ぼーっとしているため、自治体を運営していくのに、本当にそれでよいのかということを考える。職員も議員も市民もぼーっとしているのではないかと感じる。災害などが起きた時に、近所の方を助けるという意識は高いと思う。そのようなところがよいところであって、個人的な意見であるが、改善できるところは、やはり、みんなでもう少し先を見て、協力できるところは協力していこうという機運を高めてもらえばもっとよいのではないかと考えている。
- 議員 市民の満足度が高いものは、ゴミの選別が無いこと。それにより弊害として、よそのまちに住んでいる人が島田にごみを捨てる。それくらい、選別の仕方にメリットがある。このことは、反対に考えると、楽をすることは負担が増えるということも理解する必要があると思う。市の魅力といえば、立地環境的には、交通三次元が空港を中心に半径30キロの間にほぼそろっているということ。御前崎港、大井川港、JR東海道線、東名などがある。これから人口が減少し、税収が少なくなってくる。その対応のために合併という考えもあるかと思う。ただ、今の方向性としては、更なる合併ということとは、短期間の間では難しいと思う。それをフォローするものは何かというと、地域連携ではないかと思う。地域連携を考えた時、今、静岡県の磐田から焼津の間に県民の約3分の1が住んでいる。また、空港周辺に平野が非常に多い。これから開発する上で可能性を秘めていると感じる。
- 委員 島田は色々なところを工事しているため、道がぼこぼこしている。困ることは、雨の日に車で走ると、歩行者に水がかかってしまう。もう少し平らにして欲しい。関係者に伝えていただきたい。
- 議員 島田市は穴が空いていれば、1～2週間の間に埋めてくれる。そのような体制になっている。
- 委員 そのことは承知している。穴の問題ではなくて、全体が平らでない。
- 議員 主要道路は、平らに整備される。
- 委員 主要道路を歩く人はいない。
- 議員 裏に入った道は舗装が甘い。路盤がしっかりしていれば、そこに舗装をかければ平らになるが、路盤そのものが柔らかいため、ぼこぼこしてしまう。例えば水道工事をやった場合、最初は少し盛り上げるが、車が通ることで平らになるが、やがて下がってしまう。裏の道はそのようなものが多い。
- 委員 子供達は、そのような道を歩く。せめて、そのようなところは平らに



して欲しい。

- 議員 市へのそのような要望は地区からも上がってくるが、なかなか追いついていないのが現状である。
- 委員 この場でどうにかして欲しいというわけではないため、承知していただければよい。
- 委員長 参考までに、道路工事の半分は市の発注ではなく、民間の発注である。例えば、どこかの会社が自社に下水道を引くなどである。市が専用許可を出す時に、厳しくすればできないことはないと思うが、そうすると経費が上がるため、民間の負担が増える。県道の場合は、主要道はアスファルトをした後5年間は占用許可をしないため、沈下が起きない。ある程度たつと、全体として路盤も含め舗装し直すためお金はかかる。主要道とそうでない道では占用許可においても異なる。路面工事のお金のかけ方も異なる。主要道は大型トラックが走るため、路盤がしっかりしていないといけないということもあり、基準も異なっている。
  
- 委員 静岡市や浜松市などはSDGs(持続可能な開発目標)の取組を行っている。島田市においても一つ発信材料として使えるのではないか。そこで、発信ということに対し、議会側からすると、島田市はどのようにすべきとお考えか。
- 議員 発信について、島田市には「緑茶化計画」がある。これは、お茶を販売することが第一目的ではなく、島田市の統一の目標のようなイメージである。シティプロモーションとして、お茶のまちであるという意識付けでやっている。昨日、西部の議長会があり、そこで、島田市の緑茶化計画について非常にうらやましがられた。1つのテーマで、色々な部署が取り組んでいるところもすごいが、市民の方が緑茶化計画とは何かと思うことも1つのシティプロモーションの中に入っているのではないかと言われた。内部では効果はそれほどないのではないかということもあるが、外から見れば、デザインがあつたり、世界で一番お茶を愛するまちなど、なんだか分からないけれどすごいまちであると思われることも1つの発信になっているのではないか。緑茶化計画のバッジをつけて色々な会議に出席すると、それは何かと聞かれることがある。それが、話題のきっかけにもなり、宣伝にもなっていると思っている。
  
- 委員 広報紙の市政羅針盤に小中学校の統廃合について具体的なことが書かれていた。第1の案として、北部4小学校(伊太、神座、相賀、伊久美)と第1小学校を統合し、北中と第1中を統合する。第2の案として、第3小を改修時に中学校に転化した上で、第2小と第3小で一貫型の学区を形成する。また、湯日小と初倉小を統合し、将来的には初倉南小も統合する。そのよう

なことが、年次は記載されていないが、「早々」や「早めに作る」という表現があった。幼稚教育を大事にされている市長であるが、義務教育に対し、市民や教育関係者はどのように思われているのか教えていただきたい。

○議員 小中学校の統廃合について、地元への説明会に行ってきた。第4小を工事しようとしていて、その後、耐震化や耐用年数の関係で第1小をやらなければならないというスケジュールになっている。ただ、第1小をやる時に、北部のことを考えてやらないと、建てた後に増築することはできないため、北部については、第1小を建てる時までには何らかの対策をしなければならないため、そこまでに結論を出さなければならないため急務である。遠いところについては、スクールバスなど色々考えた中で対応していければよいのではないかと思う。初倉については、湯日小は、どちらかに統合しなければならないということで、初倉小と統合し、初南小は、個人的には、今すぐでなくてもよいだらうと感じた。現在300人くらいいて、他では50人くらいでがんばっているところもあるため、100人を切ったら考えればよいのではないかと思う。初倉地区は平坦部も多いため、これから増える可能性もある。昔は、初倉は1校しかなかったため、そこまで歩いて行けばよいという意見もあったが、交通量も増えており、初倉の中を歩くことは結構大変であるため、初南小は残す形で進めていけばよいのではないかと個人的には思う。今後のこともあるが、初南の教育の文化もあると思うため、そのようなところも大事にしていただければと思う。

○議員 初南小の統合に関係する父兄を対象とした説明会と地域に対して行われた説明会に出させていただいたが、今後も、また予定されていると聞いている。今年度の湯日小の新入生の5人のうち女の子が1人しかいない。来年度の4年生のうち1人しか女の子がいないということで、女の子がかわそうだろうということで、湯日の方達から、子供達のことを考えると初倉小に通うことになることはやむを得ないだろうということから出ていると解釈している。今、実際には、湯日小の子供達は、初南小の放課後児童クラブに通っている。では、なぜ、湯日小と初南小が統合しないのかという話になると思う。初倉全体で見ると子供達の人数は減っており、小中一環校が理想であるという話も教育の方で出ているため、初倉では、いずれは、小学校も中学校も一つとして小中一環校にしてはどうかという意見が出てきたため、その説明に入っているところである。しかし、市の教育委員会の説明の仕方が悪く、平成34年に決定のような内容で案内通知を出したため、けんか腰で入ってきた父兄の方がいらっしまった。そこを丁寧に説明していただくようお願いしたが、質問に対する回答に行き違いがあった。また、説明が足りない部分もあり、ますます混乱している状況にある。行革にも関係すると思うが、民間であれば、ぐうの音も出ないくらいのプレゼンをするか、根回しをきちんとした上で会議をする。それが民間の手法である。行政マンはどちらも

欠けていると思う。とりあえずやってみて、駄目ならもう一度やればよいというところから入るため、もう一度説明していただいているところである。なぜ統合をした方がよいのかという説明が足りなかったり、統合した後の残った学校の運用の仕方をきちんと答えられなかった。何年後かの初倉の状況がどうなり、このような方向にもっていきたいため、小学校や中学校、コミュニティの建物をこのように再編していくというように、長いスパンで話をしない。教育委員会と当局が分かれている弊害だと思うが、市民が求めている答えと教育委員会が出す答えがかけ離れているところがよくないのではないかと感じている。これから、そこを埋めていく作業に入っていく。先ほど、交通量の話が出たが、今でさえ、車には衝突安全機能があり衝突事故が減っているというデータがあり、何年後かには、自動運転になると思う。そのあたりも踏まえ、どういうまちになっているかというビジョンをきちんと説明し、安全に通わせる方策など全てを整えて説明をしなければならぬところを、現状を10年後に当てはめているため混乱しているのではないかと感じる。

- 委員 湯日と相賀と伊久美が現在複式学級であると思う。市長は特認校の伊久美は残すという趣旨をうたっている。伊久美だけ、特認校であるため複式学級を認めるということは、いかがなものか。特認校の特殊性はよく分からないが、平等的なことを考えると、3校すべてが複式学級をやめて他と統合すればよいのではないかと個人的に思うがどうか。
- 議員 私は、地域の方達がどのようにまちづくりをしていくのかを聞くことが、まず第一だと思う。子供の父兄が、子供達にとってどのような環境がよいのか。湯日の方達は、そんなに遠くなく、たくさんの子供がいる初倉小で育てた方がよいのではないかという判断をされたと聞いている。それはそれでよいと思う。伊久美についても、色々なことを、色々な年代の方が話し合い、特認校を望むのであれば、それでよいのではないかと思う。地域により地形や交通の便など色々な状況があるため、全てが同じではないと思うので、同じように線引きをしなくてもよいのではないかと私は思う。
- 議員 特認校をいくつも作ることは難しいと思う。どうしても地元でうまくつきあいができないなど特殊事情があり、父兄の方が、そのような環境のもとで自由にやらせたいということがある。それにより、すごく明るくなった子供さんがいたりするため、特認校は1つ必要であると思う。特認校の小学校を卒業し、地元の中学校に帰って行ったが、やはり、うまくつきあいができず、北中へ通学できるような配慮をいただいたこともある。そのように、事情に合わせた方針の変更があると思う。父兄との話し合いの中で変更もあるのではないかと思う。
- 委員 人にしかできない業務は、人でやらざるを得ないが、人でなくても

できそうな業務について、少しでも機械化していくことで、簡易な業務をなるべく減らし、職員が本来やるべきであったり、もっとやりたい仕事をやれるようにしていけないかということでRPAを取り入れていこうという話が職場であり、色々な会社のデモを見たりしている。個人的には、そのようにしていけると、自分自身も行政職員として、行政職員にしかできないことができているという実感が湧いてくるのではないかと思っている。議員のみなさんは、機械化していくことや、民営化や委託化していくことについてどのように考えているのかを聞かせていただけると、今後の参考になるのではないかと思います。

- 議員 質問の答えになっているかどうか分からないが、個人的な意見を言わせていただくが、先ほど委員から、市の職員のどこを改善すればよいかという話があった。私が入った頃と比べて話をさせていただくと、上司に対して言いたいことが言えるような環境があって欲しいと思う。言う勇気を持って欲しい。今言われた改善は、直接仕事をしている人が一番感じる場所だと思う。市民と直接話をされるのは、窓口の人である。その方が、市民の意見を聞いている。それを、どれだけ上にアピールできるか。上の人も、ぼーっとしている人が多いため、勇気を持ってきちんと伝えて欲しい。市民の立場に立って物事を進める職員のみなさんは、勇気を持って上の人に話をして欲しい。そのような仕組みを作ることこそ、行政改革であるし、先ほどお話した、自治基本条例を作った時の意味合いもそういうことだと思う。市役所がよくなれば、市民もよくなる。そのうち、議員もよくなってくると思うため、ぜひ、勇気を持って話をさせていただきたい。
- 議員 平成26年、27年に事業仕分けを行った。事業仕分けは、無駄を省くことが第一目標ではなく、事業仕分けで、職員の方が事業を見直すことが必要で、公開の場で説明することでプレゼンがうまくできることが目標である。今の仕事のやり方を変えたいということは、1つの事業の見直しという形でいけると思う。これから、議会改革の中で事業の見直しということで、事業評価シートを作って欲しいとお願いしているため、それも1つとしてあるため、どんどん職員の方から言っていただければよいのではないかと。
- 議員 昔、手計算をやっていた事務は1から10までやらないと終わらないが、今はパソコンなどで計算ができてしまう時代になっている。我々は1から10まで手で作業をしていたため分かるが、後から来た人達は、パソコンに入力するだけで、その中でどのように処理されているのかが分からない。その人が、私の仕事は、ここで入力することであるということであれば、それは違うと思う。やっていることは入力していることであるが、その裏でどのようなことが行われているのかを伝えていただきたい。自分の仕事は必ず、次の人につながる。次の人がやりやすいようにするために、自分がどうしたらよいかを考えるためには、どのような処理が行われているのかが分かって

いないとできない。そのような意識で仕事をしていただきたいと思う。

- 議員 職員がやる気になると、職場も変わると思う。我々が色々なところで話をする中で、先輩職員は、去年100であれば、今年も100でよいと考える方が多いと思う。民間では、去年100であれば、今年は120で、頑張らないと成長しない。去年100のところを、120の目標とした場合、100であればマイナスと見られるが、そのような意識が大事だと思う。失敗は怖いですが、失敗しても、やる気を持って挑戦していくという意識を職員には持っていただきたい。全ての議員も、そのようなことを感じながらも、挑戦していると思う。議員は、たまたまバッジをつけているが、一般の市民と同じであるため、職員のみなさんも、市民のみなさんも、どんどん言いたいことを言ってきていただきたいし、聞いていただければと思う。職員のみなさんには、こちらから聞くことが多いかもしれない。市民のみなさんは、私たちはこのように思っているということを経験なく言っていただきたい。先ほど委員の話の中に市民同士のコミュニケーションや議員とのコミュニケーションの場が欲しいという話があったが、我々も一生懸命機会を持つように努力するし、みなさんも努力していただければ、議員は特別の存在ではなくなるのではないかと思う。

#### 4 閉 会

- ・この委員会は本日で最後である。委員会の任期ややり方について、委員からの意見を踏まえて、来年度の委員会について検討していただければと思う。（委員長）
- ・9月から3月の任期は短くて、大変だと思う。（議員）